



にじのはし幼稚園 園だより



令和 5 年 7 月 号
港区立にじのはし幼稚園
園長 石川典子

梅雨明けまでもうしばらく曇りや雨の天気が続きそうですが、恵みの雨は、子どもたちが蒔いた種や植えた苗を、日に日に成長させています。キュウリやピーマン、ミニトマトなどは実を付け始めました。今年度は、本園職員提供の稲をバケツで育て、米作りにも挑戦しています。

1 学期間、ガーデニング係の保護者の方が、何回にもわたってにじっこガーデンをきれいにしてくださいました。古い木を抜き、新しい花を植え、ガーデンを素敵にデザインして整えてくださいました。子どもたちは、「フワフワのアジサイがある」「白いね、きれい」と自然環境の変化に敏感に気付き、間近でじっくりと見たり、大事そうに手で触れたりするなど、感性を働かせて関わっていました。どんよりとした曇り空の下で、ひときわ「白」が映えるアジサイに、子どもたちは「美しさ」を感じ、誰から言われるでもなく自ら「大事にしよう」という気持ちをもったようです。

保護者・地域の皆様には、1 学期間、親子活動や行事、PTA 活動、係活動等々、本園の教育にご理解・ご協力をいただきました。お陰様で、教育活動がより充実し、幼児の豊かな体験や学びとなりました。保護者の皆様におかれましては、子育ての喜びやお子さんの成長を感じる機会となっていれば幸いです。

にじのはし幼稚園は、幼児、保護者、地域との信頼関係を基盤に幼児の学びを支えます。

子どもの自己肯定感を育む保護者

- ① 子どもの思いや成長に気付き、子育てに喜びを感じる
- ② 生涯発達の鍵となるアタッチメント(子どもと養育者間の情緒的なつながり)を築き、安心・安全の基地となって子どもを支える
- ③ 学級の子どもたちの成長を先生や保護者同士で喜び合う
- ④ 幼稚園の教育活動を理解・協力し、園や地域と共に子どもを育む

(幼稚園経営計画 3 幼稚園経営の方針より)

上記②の『アタッチメント(子どもと養育者間の情緒的なつながり)』について、本園は、東京大学大学院教授 遠藤利彦先生から指導を受けています。遠藤先生は“子育て・子育てに「たった一つの理想型」はない。なぜならば子どもも大人も(保護者・教員)もみんな、元来、一人ひとり違うから。それぞれの子どもと大人が置かれた生活状況も異なるから。「それぞれの形」を創っていくべきもの”とおっしゃっています。

夏休みは、ゆったりとした気持ちで安全にお過ごしください。ご家庭によって過ごし方が異なっても、保護者のお子様への温かい関わりは必ずアタッチメントにつながります。

